

③目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10 16 19 22 28	ご家族との関係が、コロナ禍の影響もあり十分にしていられず、淋しい思いをされている方が多かった。	感染対策も徐々に緩和されていく中で、積極的にご家族と過ごされる時間を増やしていく。	・1年間の四季を感じられる行事を行う。その行事に、ご家族も一緒に参加していただく。 ・個々、ご家族との関係性の違いがあるので、担当者に個別にご家族との関係性を深め、負担のない程度で関わりを持ってもらう。	12か月
2	20 23 24 28 34 39	コロナ禍の影響と、入居者の重度化により余暇活動や外出をする事が難しくなっている。	四季を感じられるような行事をご家族と一緒にを行う。	・感染対策を考えながら、四季を感じられる行事を行う。 ・入居者の介護が重度化になり事故のリスクも上がっている為、リスクマネジメントをしっかりと行う。 ・入居者が個々どのような余暇活動を望むのか、担当者でのカンファレンスを最大限に活用して考えていく。	12か月
	11 12 14	休憩について取り組んだが、まだ十分な時間の確保は出来ていない。排泄介助等、全職員が出来ない業務が多く現場を離れる時間が限られている。職員の体や心の負担が多く、本格的に対策やケアが必要になってきている。	・全職員が業務を行いながらも、入居者優先に動く事で、休憩の確保を実現していく。 ・職員の体や心の不調を所長、主任が把握しておく。不調が軽減出来るように、受診や勤務状況等、相談していく。	・なぜ、休憩がとれないのか？自分がどのような動きをとればよいのか？無駄な業務はないのか？日々、自主的に意識しながら勤務し、職員間で相談する。 ・休憩の時間を少しづつ延ばしていき、年度末には1時間現場を離れた場所での休憩の取り方が出来る事を目標にする。 ・現場を離れての休憩を取る事で、心のケアを図る。 ・職員の不調を真摯に受け止め、改善出来る方法を法人全体で考える。	12か月
3	23 36 39 42 52 54	職員間の報告・連絡が食事作りの職員に伝わっていない。申し送り等、利用者への配慮がない。利用者への言葉づかいが緩くどのような言葉掛けが適切であるか、明確にする必要がある。認知症の理解が不十分であり、知識不足に気付いていない職員もいる。施設内の環境整備が出来ていない。口腔ケアが認知症の進行により難しい。	・職員間の伝達方法や、言葉づかいは慣れがある事で気づきにくくなってきている。常に振り返る場を設ける。 ・認知症の理解を深める ・施設内の環境面、入居者の整容面を職員全体で意識して取り組む。	・伝達の方法や内容を、明確に決め実践していく。 ・気になった言葉づかいを明確にし、常にカンファレンスで振り返る。良い言葉づかいも明確にし、意識を高める。利用者の1人1人の認知症の理解を深める為にも、個別カンファレンスを活用し深めていく。 ・施設内の環境整備は、少しの時間でも空いている時間を有効に使う意識をもつ。 ・入居者の整容面は曖昧にせず、必要な事を明確にし、常に意識出来るツールを作る。	6か月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。